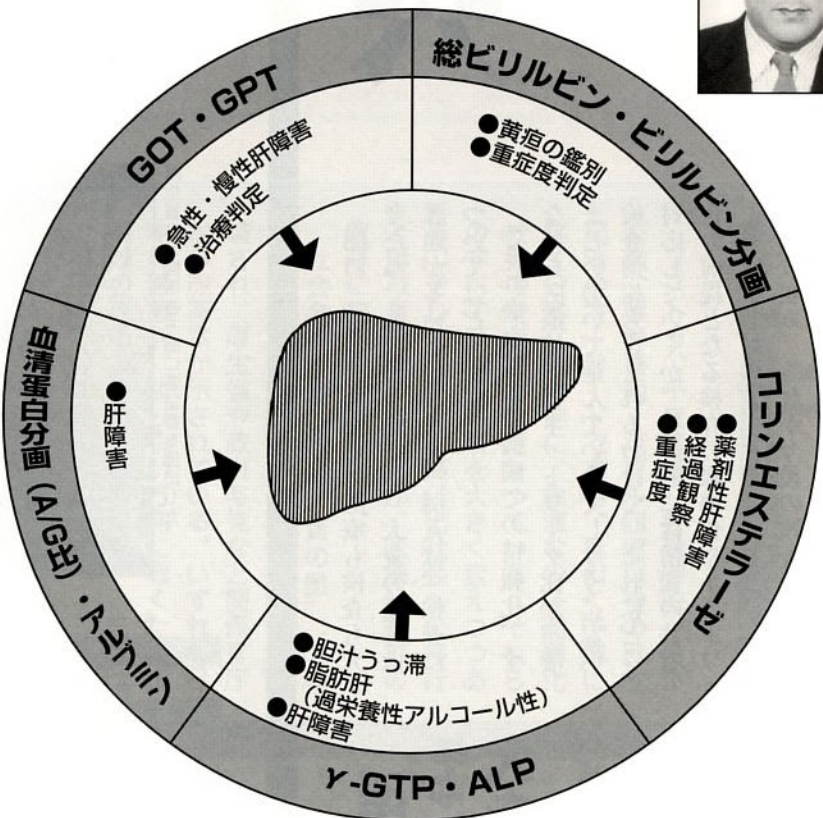


肝臓に問題がある時に受ける検査

日本臨床検査医会 船渡 忠男氏



図・肝臓の異常を調べる検査



肝臓は多彩な機能を持っていますので、多くの検査項目を併せて肝臓の機能が正常であるかどうかを判断します。患者さんは、アルコールを飲み過ぎて体がだるい、最近疲れやすい、一度肝臓を見てもらおうという時に、是非医療機関で血液検査、さらに腹部超音波検査を受けることを勧めます。

また、長期に薬を服用している場合は医療機関で、定期的に肝臓を調べる検査をしておりま

す。また、長期に薬を服用している場合は医療機関で、定期的に肝臓を調べる検査をしておりま

す。また、長期に薬を服用している場合は医療機関で、定期的に肝臓を調べる検査をしておりま

肝機能を組み合わせるとの方向性を決めます。基本的検査、いわゆるスクリーニング検査として図のような血液を採ってわかる検査の項目があります。それぞれの検査値の異常(基準範囲を超える場合)から、現在の肝臓の状態を推測できます。

肝臓は予備能力がありま

期診断で受ける検査は、肝細胞逸脱酵素であるGOTとGPTを同時に測定します。GPTは肝細胞に比較的特異的ですが、急性肝障害では両者が上昇し、治療経過とともに低下してきます。γ-GTPとALPは胆汁うっ滞で上昇してくる酵素ですが、肝障害でも両者が上昇します。γ-GTPは過栄養性脂肪肝やアルコール摂取によって上昇しますが、摂取量の減少により低下してきます。黄疸の鑑別には、総ビリルビン・ビリルビン分画、肝障害の程度を反映する検査には総蛋白(A/G比)、アルブミン、コリンエステラーゼなどがあ

り、今健康と想